

ターミナルケア

ターミナルケアに関連する用語

担当： 終末期共創科学振興資格認定協議会
一般社団法人知識環境研究会教育会

ターミナルケア（Terminal Care）とは

- 1950年代から米国や英国で提唱された考え方
- 「人が死に向かってゆく過程を理解し、医療のみでなく、**人間的な対応**をすること」を主張したケア
- 積極的な治療を行う時期から、終末期に対応した医療・介護へと切り替える時期に行う



ターミナルケアに関連する用語

- ホスピスケア (Hospice Care)
- 緩和ケア (Palliative Care／Comfort Care)
- エンド・オブ・ライフケア (End-of-Life Care)
- 看取りケア (MITORI Care)



ターミナルケアに関連する用語

- エンゼルケア（Angel Care）
- グリーフケア（Grief Care）
- 共創的ターミナルケア（Co-creative Terminal Care：CTC）

ターミナルケア

ターミナルケアを支える基礎概念

担当： 終末期共創科学振興資格認定協議会
一般社団法人知識環境研究会教育会

死

- 生体のすべての生理機能が停止し、回復不可能な状態
- 死の三兆候（呼吸停止・心停止・瞳孔散大）を医師が確認する
- 臓器移植が関連する場合は、脳死をもって死と判定される
- 死後の身体の変化についても知っておく
- ターミナルケアにおいては、死を不必要に遅らせたり早めたりしないことが原則となる

終末期

- 「立場表明」における「終末期」とは、「病状が不可逆的かつ進行性で、その時代に可能な限りの治療によっても病状の好転や進行の阻止が期待できなくなり、近い将来の死が不可避となった状態」とする。 ※
- あえて具体的な期間の規定を設けていない
- 「人生の最終段階」とも表現される

※ 出典：日本老年医学会「高齢者の終末期の医療およびケア」に関する日本老年医学会の「立場表明」2012」, <https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/tachiba/jgs-tachiba2012.pdf>（最終アクセス 2023.11.29）



クオリティ・オブ・ライフ（Quality Of Life：QOL）

- 「生活の質」「人生の質」等の意味で広く使われている
- 日常生活動作（Activities of Daily Living：ADL）とは異なる
- 最期まで「その人らしく」生きることを支援するケアがQOLの維持・向上につながる

ターミナルケア

介護職にとってのターミナルケア

担当： 終末期共創科学振興資格認定協議会
一般社団法人知識環境研究会教育会

全人的な痛み

- 死を迎える人は「**全人的な痛み（全人的苦痛）**」を持つといわれる
- 全人的な痛みは、**身体的、精神的、社会的、霊的**（スピリチュアル）な痛みによって構成される
- これらの痛みは相互に深く関連している





介護職が行うターミナルケアのポイント

身体的ケア

- 臨死期の特徴を踏まえて身体の状態を観察する
- 起こりやすい合併症を予防する（肺炎、褥瘡等）

精神的ケア

- 「受容」「傾聴」「共感」の原則をもって接する
- 家族のケア、グリーフケアも重要な役割である

社会的ケア

- 地域の社会資源を把握し、適切な支援者につなぐ
- 本人主体の意思決定をサポートする

ターミナルケアを行う際の心構え

- 寄り添い、気に掛ける人間の存在自体がケアである
- 本人を中心に、チームとしてケアに臨む
- 知識とスキルを前提に、オートメーションではないケアを目指す

ターミナルケアに関わる全ての者に求められる姿勢

視心

聴心

触心

打心